



吉田誠 / 吉田写真事務所

06

奨励賞

町田薬師池公園四季彩の杜 西園ウェルカムゲート

受賞者

設計者 山田伸彦建築設計事務所・株式会社スタジオテラ設計共同体

公共空間の新しいデザインプロセス

2016年に公募型プロポーザルで選定され2020年に竣工、コロナの影響もあったが、2020年6月オープンした。設計者がプロポーザル時に訪れた敷地は、既存の薬師池公園の隣接地で、土と雑草の裸地として取り残されたような土地で一部駐車場として使われていた。しかし20mの登った先には、前面道路からの音も消え、北側に望んだ里山風景に心を奪われた。建物を道路沿いに配置して国道の存在を敷地中腹あたりで消すことで、道路を挟んで南側にも広がる里山風景を心理的にも物理的にも繋げることができるのではないかと考えた。厚みのある敷地外も含めたこの風景に対して、それほど大きなことをしなくても、魅力を顕在化させてこの敷地のポテンシャルを生かせるのではないかと、そう考えて設計をした。

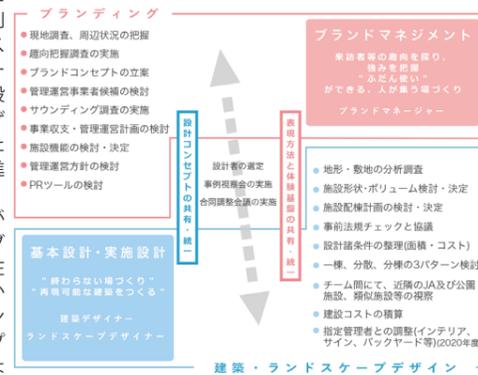
本施設は、町田市(人口約42万人)の中心市街地から5km内(車で約15分程度)に位置する町田薬師池公園 四季彩の杜エリアに整備された公園である。丘陵地特有の起伏に富んだ地形と、かつて落葉樹の雑木林が残る自然豊かな四季彩の杜エリアにある。本計画は町田市の公共施設であり、その整備にあたっては同市からそれぞれに業務委託をされた「ブランディングマネージャー」と「建築設計事務所とランドスケープ事務所」の設計共同体が連携。町田市とともに、ブランディングマネージャーが四季彩の杜エリアと西園のコンセプト、敷地の活用方法から施設のプログラムを設定し、それらを条件として、相談、協議、意見交換をしながら設計共同体が空間デザインを同時に取り組むことができ、プロジェクトにおいて一貫性を確実に実現できた稀有なプロジェクトであると考えられる。事例の視察や敷地調査をはじめ、各業務進捗などは関係者全員での共有し、計画を進めた。

複数の公園等で成る対象地の核と成る複合施設を整備し、認知度と回遊性の向上が目的とされた。このエリアの情報発信とバラバラに見えていた薬師池公園エリアのブランドの統一、消費/滞在/無目的に過ごすことの出来る、一見相反する内容の滞在をかなえることを目指した。またそれだけではなく、計画では雑木林に囲まれたかつての人の暮らしや営みが感じられる持続可能な風景を目指し、場所の地歴やポテンシャルを読み解きながら、斜面地の地形に沿った分棟型の建物配棟やランドスケープを含めた造成と修景計画を行い、集落感と回遊性を持たせるための場にあった適切な空間の在り様(プログラム、ボリューム、位置等)を提案した。

薬師池エリアの"ハブ"としての西園ウェルカムゲート



チームの編成と取り組み概要



斜面地の配置/配棟計画、園路

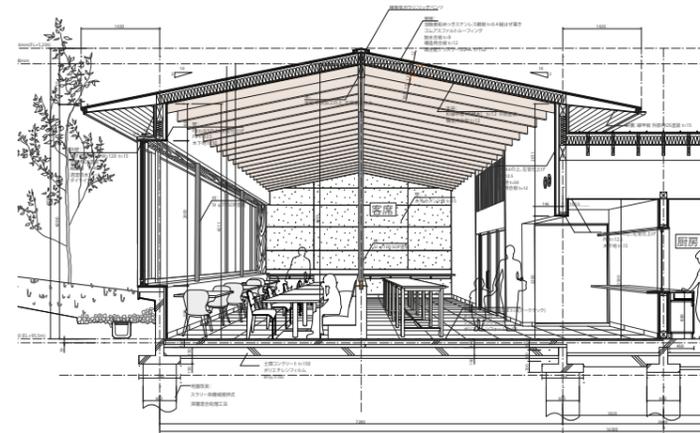
町田市産の野菜などの物販や近隣エリアの公園、施設の情報案内機能を併設した「インフォメーション/直売所」、公園の無料休憩所機能を持つ「ライブラリー・ラウンジ(無料休憩所)」が前面道路の駐車場ラインと等高線をなぞるように配置されている。高低差約3mの道を上がると「カフェ・レストラン」、時間貸しなどができる多目的スペースである「ラボ・体験工房」の建物機能を配置している。一部もとの敷地で1.5mの段差のあった部分を擁壁を兼ねたエレベーター棟で上下の建物間のバリアフリー動線を確保。この高低差を緩やかにつなぐ要素として、だんだんテラスを設え、建物同士や奥の公園敷地に対しての様々なアプローチを設計した。敷地の中でのボリュームの見え方、窓と窓の向こうに見える景色をスタディし、ボリューム間を繋ぐ間の居場所として設計している。

約20mの高低差がある敷地全体に緩勾配(4%)の園路を計画し、誰もが丘陵地を往来できる設えとした。緩勾配としたことで手摺が不要となり、園路からはベビーカーや車椅子利用者の視界を遮ることなく、豊かな自然風景を見渡すことができる。



構造的な工夫

-プロポーションや気持ちのいい空間を違和感なく実現するための5つのポイント-



- ① 木造の切妻屋根の形をそのまま内部空間としている。屋根を支持する垂木を露出すること(インフォメーション棟/カフェ棟)で、天井を省略するとともに、空間にリズムを与えている。
- ② 大スパンを可能にするため、補助的に棟木は鉄骨材(25×400mm)を用いている。(物販棟-最大10,920mm、カフェ棟-最大7,280mm、ラウンジ棟-最大7,735mm、ラボ棟-最大10,920mm)技術が前に出過ぎない、人の営みに寄り添ったデザインにしている。
- ③ 高低差のある土地の特徴を生かし、過度な造成を避けるため布基礎を採用。
- ④ カフェ棟北側の窓は、室内を全面開口とするため耐力壁は外部の妻面に配置し、客席の端から端まで、芝生広場を一望できるように考えている。

⑤ 建物高さに対して軒の出のプロポーションを維持するため、通常の木造住宅よりも軒の出を大きくしている。深い庇は、雨よけだけでなく、人々が軒下でも溜まれるように考えている。

工程の調整によるインテリアデザインまで含めたデザインコントロール

公共の指定管理制度の中に積極的に設計者チーム+町田市が介入し、今までの指定管理者が民間事業者として蓄積したノウハウに頼るのではなく、チームが将来の公園像までを含めたニーズに応えるためにコーディネート、コラボレーションし、経費削減の優先による質の低下や多様なプログラムが故に指定管理者の専門外の分野に対しての運営などでの魅力低減を避け、民間施設とも遜色のない魅力のある施設になるように考えた。

公共の施設ではなくては出来ない機能(無料休憩所など)を備えることや、将来までを見据えた雑木林の育成など近視眼的なプロジェクトではない短期と長期を両立するプロジェクトとなった。PFIなど公民連携の手法も注目されているが、従来の指定管理制度の中での最大限の工夫により、より良い施設立ち上げの手法の1つとなり得ると考えられる。

照明計画

夜間でも来訪者が訪れられるような設計を行っている。一方で動植物に配慮し、斜面地の部分は、舗装面を照射する程度の最低限の庭園灯としており、見上げにも配慮して、庭園灯の背後には植栽を配植し目立たない様にした。アッパーライト等の演出照明も最小限とし、タイマー制御で消灯する計画となっている。



受賞概要・講評

町田市に所在する公設民営の分棟型複合施設。薬師池公園四季彩の杜エリアの玄関口であり、国産のスギ・ヒノキを施設内のカフェや直売所等の各棟へ構造材・内外装材として活用している。在来木造を基にスケール感を綿密に調整し、公共空間として親しみやすい場所づくりを目指した。

本作品については「ランドスケープを考慮した優れたデザイン性」「元々の地形を活かすつつ回遊性を確保している点」等が評価された。

